

来年度になってからではなく、今年度の内にしっかりと準備をして素晴らしいスタートを! (その3)  
**様々な「期待と不安」を前提に、年度始め、管理職は何をすべきか!**

年度始めに児童・生徒や教職員、保護者は、様々な期待や不安をもってスタートしています。それだけに、管理職の指し示す方針や学校運営に対する期待感が大きく、注目しているはずです。

そこで、来年度のスタートに当たり、心がけておきたいことをいくつかご紹介します。特に、新任や転任の管理職の先生方には参考にしていただき、その心がけを具体的に取り組んでいける準備をこの年度末に進めておくことが大切ではないでしょうか。

**心がけ1：緊急性のあるものは直ちに手を付けていく!**

教職員や保護者への連絡体制は!  
危機管理マニュアルの確認も!

児童生徒の安全について早急に対処策を示し、実施することが重要です。

新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、大型地震や集中豪雨等自然災害への対策、登下校時の安全対策、不審者等への対策など、起こりえる災害・事故に対して、改めて防災計画を見直し、対応を万全なものにする必要があります。

そして、保護者や地域の方々や関係機関の理解と協力を得て、取組を進めていくことが不可欠です。

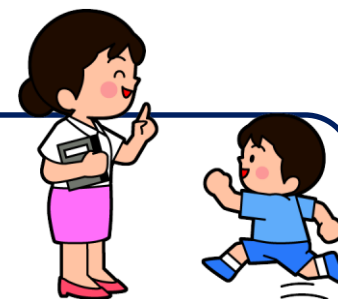
**心がけ2：早く教職員・地域の様子を把握し、知る、知ってもらおう!**

① 前任者との引継ぎ事項を吟味・検討する。

引継ぎ内容をそのままにせず、自身の受け止め、考えに基づき、どう生かすかを考えます。吟味し、取捨選択をしっかりと行うことが大切です。

② 「積極的に、意識的に、見る、聞く」を心がける。

校区を自分の足で歩くことによって、子どもたちの通学路の隅々まで知ることができます。〔裏面へ〕



具体的に知り、把握することによって方針が的確なものになります。地域を車で通り過ぎるだけでは何も分からないし、あいさつのやり取りもできません。できるだけ子どもたちの通学路は歩いてみて、地域の方々に声をかけてみましょう。子どもを大切にする、地域を大切にする管理職の姿勢が伝わります。

『教職員と話す！』特に、新しく着任した管理職に積極的に話しかけてくる教職員は少ないかもしれません。機会をつくり、話し込み、教職員の得意分野、姿勢、不安や悩みなどできるだけ掴み、かつ接近することをこの時期だからこそ大切にしたいものです。

このようなことは、意識しなければできないことです。ぜひ、努力を惜しまないで声かけをしてみてください。

第24号②

### 心がけ3：校長の人柄を！

話すことで相互の人柄に触れられます！

管理職のコミュニケーション力が問われます！

「新しい管理職はどんな人なのだろう？」、その思いに応じることが出会いや関係づくりの最初の一歩です。経営方針等とは別に、最初に周りの人が知りたいのは、新しい校長や教頭の人柄かもしれません。ぜひ、積極的に自己のありのままが教職員や児童生徒たちに伝わるように努力してください。

### 心がけ4：教育活動のスムーズなスタート、そして基本を示す！

まずはAPの  
推進計画を！

「新年度がスタートしても、なかなか校長先生から経営方針が示されない。」となれば、進むべき方向や取り組むべきことが見え教職員の不安は増すばかりです。

少なくとも、引継ぎ内容を踏まえ、すでに準備された計画に従い教育活動がスタートできるよう、当面の取組について示すべきです。

その上で、学校の様子を把握し、学校の使命や役割、自身の考えに基づき、少なくとも4月中にはしっかりと今年度の経営方針や経営計画を定めるべきです。

タイムスケジュールを示しておくことも校長への信頼感を高めることになると思います。

年度始めの取組は、教育活動のスムーズなスタートと今後の経営の基盤づくりとなります。「しばらく様子を見てから自分らしい経営を。」と考えがちですが、いつまでに何をするか見通しと考えをもってスタートしたいものです。